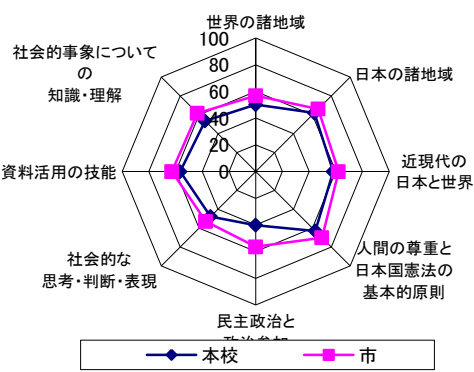


宇都宮市立国本中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	世界の諸地域	50.1	56.9
	日本の諸地域	62.2	66.4
	近現代の日本と世界	58.0	62.1
	人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	63.1	70.1
	民主政治と政治参加	40.2	56.4
観点別	社会的な思考・判断・表現	47.7	53.0
	資料活用・技能	56.5	62.7
	社会的事象についての知識・理解	53.6	61.9



★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の諸地域	世界の諸地域において、ヨーロッパの例題で資料を活用して回答する項目が14、2ポイント低く、それを解読して思考する問題については1、5ポイント低い。その他アメリカについては断面図の考察や農業の特色等について理解力の不足が見られる。全般的に、地図や数値的資料の読み取りについて、やや難が見られる傾向にある。諸外国の概況に関する知識理解が不足している。	・地理的事象の成因とその概況を、地図や模型・視覚的資料をふんだんに利用して理解させ、そうして獲得した知識を応用して各種の事象を説明できるようにしたい。 ・地図の作図技術を習得させ、学んだ知識を地図に描く習慣を身につけさせたい。その上で、獲得した知識を地図に表現する等の活動を通して、視覚的に取り組める資料を自らが描くことによって地理的内容を表現する習慣を身につけさせたい。 ・図表の読み取りと、それらの資料から地理的事実や事象を表現できるようにしたい。
	日本の諸地域	日本の地理的な知識・理解については比較的良好な結果となっているが、数値的な資料を読み込んで分析活用する能力にやや欠けるところがある。身近な話題や常日頃に見聞きする語彙や地理的な事象については比較的に興味・関心があらわれている。特定地域の農業に関する学習については、良好な学習結果があらわれている。	・地理的用語の習得を確かなものにするために、基礎的な用語や内容を繰り返し反復させたい。 ・地理的な事象を生み出す法則性と言ったものや、それらの事象があらわれる原因と、それによる結果といった因果関係を把握させ、各地域の相関関係をじっくりと考察させ、確かな知識として身につけさせたい。
歴史	近現代の日本と世界	近代の日本(明治維新)の諸改革については平均値を上まわっている。歴史的出来事の原因・背景と、その結果に関する因果関係の考察については、比較的に適切な理解を示している。日本史に比べて、世界史の内容については、定着度が平均値をやや下回る傾向があり、総括的に世界の歴史の流れを把握することに難が見られる。現代史の二つの戦争と戦後の世界については、比較的理解は良好である。	・各種の資料を有効に活用して、日本と世界の歴史の相関関係をただしく把握させたい。 ・歴史的事実のあらわされた事象と、その事実が生み出された背景といったものを、各種の資料を使って自分のことばで表現させたい。 ・歴史に興味・関心を持たせる資料を活用して、なぜ?という疑問を糸口に、歴史を自分のことばで表現させたい。
公民	人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	それぞれの項目において、正答率に大きな隔たりはないが、いずれも平均値を上回るものではない。日常の事例を用いて考察させる内容については、比較的に興味・関心を持って取り組んでおり、定着度も良好である。「公共の福祉」の学習に見られるとおり、資料を参考にして自分のことばで表現する事が苦手であり、既有知識を駆使して、自己の発想を広げて論を構成して表現する事に難が見られる。	・公民的事実や学主内容に関する項目を、身近な事象を用いて興味・関心を持たせて前向きに学習に取り組む契機にしたい。 ・資料中の図解や各種資料を、それぞれ自分のことばを用いて表現説明するようにしたい。 ・視聴覚教材の適切な活用を計りたい。 ・基礎的な内容の定着を計るために、基礎的な用語や既習内容の確認をする作業を定期的・恒常的に行う必要がある。
	民主政治と政治参加	三権分立の相互の関係性を正しく理解して、相互の関係性を正しく表現する事が好ましくない。法的な内容や政治のしくみについては正しく理解することが出来るが、それを政治・経済的な用語を用いて説明・表現する事に困難さが伴う。それぞれの事象については、身近な例を用いて我が身に起こったこととして考察すると、その項目の内容については比較的に円滑に理解できる。ただ表現することに関しては困難が伴う。	・グループ学習の導入。与えられた質問やテーマをもとに、その回答や課題に対して、それぞれが考えや意見を出しあい、集団の意見としてまとめて表現する作業を取り入れる。